

ご卒業おめでとうございます

<とうとう卒業の日がきました>

短い3学期と言っていますが、2月に入ってからには本当に時の速さを感じました。6年生とお別れする日がやってまいりました。それぞれの小学校で過ごした5年間と、統合された小学校での1年間は、全く違う環境となり、期待、不安、緊張…さぞかし大変な思いをしたことでしょう。しかし6年生は立ち止まることもなく、どんどん前に進んでくれました。学校教育目標「笑顔あふれるいいづなっ子」という大きなテーマに沿って、6年生はいつも「笑顔」にこだわってくれました。児童会のスローガンは「笑顔いっぱい。みんなであるこう」（あいさつ、ルール、交流）。ここにも笑顔というキーワードを盛り込んでいます。「全校のみんなを笑顔にするにはどうしたらいいか」「笑顔がもっと増えるにはどのようにするか」というように、笑顔という言葉を誰もが分かりやすいように具体化してくれました。これらは立派な相手意識であり、思いやりの姿でもあります。「さみどん」という新しいキャラクターも誕生し、全校児童のマスコットとして親しまれました。分からない中で…と言いながらもしっかりと自分たちの進むべき道を見つけ、全校を導いていただいたように思います。卒業間際に奉仕活動をしている姿を見ている時、6年生の姿がいちだんと大きく見えました、最後に長い間本当にありがとうございました。



<鏡の法則>

6年生を送る会を進めるにあたって、5年生は「6年生に、全校のありがとうの気持ちが伝わるように」を考え、声の大きさ、言葉の抑揚、文字・花や鳩・チェーン飾り等による掲示を、全体のバランスを見て声を掛け合いながら行っています。ドアの開閉や入退場の音楽を流すタイミング、花のアーチの位置や片付けの方向、進行アナウンスのタイミングなども考えて、当日を迎えています。「6年生の顔を見たら笑顔になって嬉しかった」こんな声が聞かれたようですが、本当に良かったと思います。

3年生はことわざの発表をしました。ただ発表するだけではなく、中国語にもあることわざと関連づけて紹介し、更に6年生にいきなり発音を挑戦してもらおうという会場一体型の発表になりました。見事に発音した6年生に、3年生はびっくりしています。「今度はぼくたちが6年生みたいに、しっかりと4年生になれたらいいです」こんな感想を残しています。

4年生はテレビでおなじみ「チョコちゃんに叱られる！三水小バージョン」と題して、自分たちで劇を創り上げています。「終わって良かった」といった単純な感想に留まらず、「この劇をやって何より嬉しかったことは、6年生が笑ってくれたことです。ぼくはそのことがすごく嬉しかったです」という感情が生まれています。

いかがでしょうか。これらすべて、6年生が進めてきてくれたことではないでしょうか。6年生がやってきたことが見事に全校に浸透し、他の学年も「笑顔」にこだわって進めようとしてくれています。

更に、2年生はけん玉交流会を1年生と行いました。けん玉の楽しさを1年生に教えることが目標でした。技を紹介したり、曲に合わせて「もしかめ&ダンス」を披露したりしています。紹介して終わりではなく、1年生のしぐさを見て、けん玉の持ち方や技のこつを優しく教えようとしている姿、班ごとに練習する場を取ってマンツーマンで教える姿、休み時間にも練習を積もうとする姿など、けん玉の興味が1年生にも十分に伝わったようです。1年生も笑顔でけん玉を操作して楽しんでいます。

その1年生は、来入児との交流会にて、小学校の案内、学校の行事や楽しいことの紹介、鍵盤ハーモ

ニカの演奏、一緒になってダンス等、今度入学してくる来入児の友だちに優しく接し、リードしてくれていました。

こうした相手意識の連鎖はどんどん広がります。そして6年生を送る会では、それらが全部6年生に返ってきたのではないかと思うのです。鏡の法則について、「そんなの偶然だよ」「たまたまさ」などの考えもあろうかと思いますが、「自分たちが相手に対して行ってきたことは、巡り巡って必ず自分にはね返ってくる」という考えは、偶然だけではなさそうだと、私は思っています。

<ケアリングとヒーリング>

こうした相手意識の連鎖が続き、次にどんなことが生まれてくるかという、6年生へのあこがれ、そして信頼です。

「6年生と遊ぶのが楽しかった。みんなの気持ちを考えて行動できていたのすごいいいと思いました」

「委員会の仕事や掃除のやり方を教えてくれてありがとうございました。私もそんなふうになりたいです」

「運動会の組体操すごかったです。私も来年やるので、6年生をお手本として頑張りたいです」

「1年生や低学年に優しくいいやり方などを教えてあげていたので、いいと思いました。私が6年生の時に、そのいい見本をしたいです」

「6年生たちがかっこよくきらきらしていて、いつかあんなふうになりたいと思いました」

こうしたあこがれや信頼の気持ちが他学年から生まれています。そして6年生のあとを引き継いで取り組んでいる5年生。6年生を送る会を立派に遂行した姿を見ていて、

「5年生で一番すごいな～とおもったことは、男女関係なく大きな声を出していたことです。マイクを使わなくても発表できるなんてすごいな～と思いました。あと体育座りです。5年生は背筋がぴんっとしていたし、静かに6年生を送る会の前に待っていたからです。そういう5年生を見習って、来年6年生を送る会をやりたいです。この姿を見て、来年5年生を過ごしたいです」

「最後、5年生だけで立っていて、1～4年生のみんなにも、『ご協力ありがとうございました』と言って、私もああいうふうに、終わっても手伝ってくれた人などにしっかり『ありがとう』を言えるようになりたいと思った」

このような子どもたちの意識がどんどん生まれてきています。care (ケア) には、「気にかける」「世話をする」「配慮する」などの意味があります。またheal (ヒール) には、「癒す」という意味があります。全校をリードする立場の子どもたちは、他の児童の世話をしたり教えたり、リードしたりすることによって、他学年のこどもたちは「喜び」「安心」「信頼」「あこがれ」を感じるようになってきます。それを感じたリードする立場の子どもたちは、「癒し」「信頼」「自信」を感じるようになります。ケアリングとヒーリング、互いに安心して、互いに高め合う、そんな好ましい関係が、三水小学校に生まれつつあります。6年生の功績は大きい物でした。でも安心してください。5年生から1年生まで、皆さんのことを忘れず、皆さんが導いてくださったことを基に、4月から2年目の三水小学校を築いてまいります。

ご卒業おめでとうございます。いつまでもお元気で。

<職員の変動>

新しく開校した三水小学校を支えてまいりました職員のうち、6名が転退職いたします。大変お世話になりました。ありがとうございました。